

# 歴史・考古学研究室 彙報

## (2015 年 1 月～12 月)

人文学報 第五二一九号 二〇一六年三月

### 教室行事日程

|               |                          |
|---------------|--------------------------|
| 1 月 14 日      | 卒業論文提出日                  |
| 2 月 4 日       | 卒業論文口述審査                 |
| 2 月 16 日～17 日 | 平成 26 年度大学院後期入試          |
| 4 月 3 日       | 新 3 年生ガイダンス              |
| 4 月 4 日～5 日   | 新 2 年生ガイダンス (八王子セミナーハウス) |
| 4 月 7 日       | 大学院ガイダンス                 |
| 7 月 11 日      | 4 年生第 1 回卒論中間報告会         |
| 9 月 28 日      | 平成 27 年度大学院前期入試          |
| 10 月 22 日     | 1 年生向け第 1 回所属決定ガイダンス     |
| 10 月 22 日     | 3 年生卒論ガイダンス              |
| 10 月 24 日     | 4 年生第 2 回卒論中間報告会         |
| 11 月 13 日     | 1 年生向け第 2 回所属決定ガイダンス     |

### 博士学位論文 (論文博士)

|       |   |
|-------|---|
| 岩瀬 彬  | 日本列島東半部における最終氷期最盛期石器群の石器使用痕研究：石器使用の変異性とその含意 |
| 小野 美里 | 日中戦争期華北占領地における文教政策の展開―「事変」下占領地の「内面指導」―      |

## 卒業論文

歴史・考古学研究室 教員業績一覧 (2015年1月～12月)

- |        |   |
|--------|---|
| 萬代 愛子  | 東京寛都における大阪商人の貢献                                 |
| 小澤 伸太郎 | 近世大山御師の階層と御師数の変遷                                |
| 鈴木 大空  | 日中戦争期の共産党統治区の歌曲について                             |
| 舟木 真人  | 八世紀における律令軍制と罪人追捕                                |
| 鴨井 奨平  | 享保期以降の抜荷と長崎                                     |
| 小町 直樹  | 戦時下東京の都市計画—「皇都都市計画」からみる東京市の都市計画に対する見解—          |
| 矢代 明日美 | 古代東北・関東地方出土土師器の法量比較による律令期の地方における土器様式の検討         |
| 川原 歩美  | 「寛文七年金沢図」に見る城下町金沢                               |
| 武智 あさぎ | 中世フランスにおける大聖堂建設活動の財政に関する一考察：大聖堂建設の資金源とそれに携わる人びと |
| 小野寺 可菜 | 台湾における「慰安婦」制度の構造—「準」公娼制度との関係性を中心に               |
| 松田 奈々  | 第四回十字軍とインノケンティウス3世—インノケンティウス3世の政治的意図—           |
| 山本 明生  | 1900年における救世軍の娼婦救済活動と娼婦取締規則について                  |
| 廣松 滉一  | 嶋木遺跡における石器製作技術                                  |
| 野中 駿   | 伊達政宗の南進政策—伊達氏側から豊臣政権を考察する—                      |
| 乾 真唯子  | 15世紀フィレンツェにおける捨児についての考察—インノチェンティ捨児養育院の事例から      |
| 保澤 美晴  | デルフォイの神託と古代ギリシア人—ヘロドトス『歴史』を通じて                  |
| 大江 剛史  | 飛騨地域の縄文時代中期土器に施文された文様様式の分布に関する考察                |
| 舩井 菜穂美 | ジャンヌ・ダルクに関する考察—異端者から聖女へ—                        |

## 教員業績一覧

### 赤羽目 匡由

#### 【共著】

1. 東北亜歴史財団編著『古代環日本海交流史 2・渤海と日本』明石書店、2015 年

#### 【論文】

1. 「渤海使の大宰府航路（朝鮮半島東岸航路）をめぐって」（『人文学報』505・歴史学編 43、首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系、2015 年 3 月）

#### 【その他】

1. 南東信（赤羽目匡由訳）「高麗時代の王室と華嚴宗」（新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序—国家・社会・聖地の形成—』勉誠出版、2015 年 3 月）
2. 「新刊紹介 濱田耕策編著『古代東アジアの知識人 崔致遠の人と作品』」（『唐代史研究』18、2015 年 8 月）

#### 【学会発表】

1. 「『類聚国史』所載の所謂「渤海沿革記事」の史料性格について」第 15 回遼金西夏史研究会大会、2015 年 3 月
2. 「渤海王大武芸の冊封号をめぐる二、三の問題」Rethinking Inter-state Relations in East Asia : Identity, Ideology, and World Order from Eighth to Seventeenth Centuries (동아시아 중세 세계질서의 역사적 재고찰)、東北亜歴史財団（ソウル）、2015 年 10 月

#### 【学会活動】

メトロポリタン史学会委員

### 出穂 雅実

#### 【共著】

1. *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station.

【論文】

〔共著〕

1. The Appearance and Characteristics of the Early Upper Paleolithic in the Japanese Archipelago. (Kaifu, Y., Izuho, M., Goebel, T., Sato, H., and Ono, A. (eds.) *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station. 2015 年 1 月)
2. Further Study on the Late Pleistocene Megafaunal Extinction in the Japanese Archipelago. (Kaifu, Y., Izuho, M., Goebel, T., Sato, H., and Ono, A. (eds.) *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station. 2015 年 1 月)
3. Further Analyses of Hokkaido Jomon Mitochondrial DNA. (Kaifu, Y., Izuho, M., Goebel, T., Sato, H., and Ono, A. (eds.) *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station. 2015 年 1 月)
4. The Emergence of Modern Behavior in the Trans- Baikal, Russia: Timing and Technology. (Kaifu, Y., Izuho, M., Goebel, T., Sato, H., and Ono, A. (eds.) *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station. 2015 年 1 月)
5. Modern Human Dispersal and Behavior in Paleolithic Asia: Summary and Discussion. (Kaifu, Y., Izuho, M., Goebel, T., Sato, H., and Ono, A. (eds.) *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia*. Texas A&M University Press, College Station. 2015 年 1 月)
6. 「北海道河東郡上士幌町嶋木遺跡における 2014 年度（第 5 次）発掘調査の概要報告」（『第 16 回北アジア調査研究報告会』、北アジア調査研究報告会実行委員会、2015 年 2 月）
7. Lithics and Climate Change: Technological Responses to Landscape Change in Upper Palaeolithic Northern Japan. (*Antiquity*, 89, 2015 年 3 月)
8. 「北海道常呂郡置戸町秋田 10 遺跡の採集資料」（『論集忍路子 IV』、2015 年 4 月）
9. A. Last Glacial Maximum Human Occupation of the Transbaikal, Siberia. (*PaleoAmerica*, 1, 2015 年 10 月)

10. Temporal Changes in the Obsidian Procurement and Reduction Strategy at the Upper Paleolithic Site of Minamimachi - 2, Hokkaido (Japan) : An approach by XRF. (Sandra SÁZELOVÁ, Martin NOVÁK and Alena MIZEROVÁ (eds.). *Forgotten times and spaces: New perspectives in paleoanthropological, paleoetnological and archeological studies*. Institute of Archeology of the Czech Academy of Sciences; Masaryk University, Muni Press. Czech Republic, 2015 年 11 月)

【学会発表】

〔セッション組織〕

1. “Human Technological and Behavioral Adaptation to the Last Glacial Maximum in Northern Eurasia.” (HaB COMM session (H-03) in XIX INQUA Congress、名古屋、2015 年 7 月)

〔単著〕

1. Some News on Obsidian Chemical Compositional Study in the Upper Paleolithic on Hokkaido. (“Prehistoric cultural exchange between Sakhalin and Hokkaido”, Sakhalin State University, Russia、2015 年 1 月)
2. 「日本列島における現生人類の出現年代と行動的特徴」(『日本考古学協会第 81 回総会研究発表要旨』、日本考古学協会、東京、2015 年 5 月)
3. 「日本列島における現生人類の出現：年代と行動的特徴」(第 69 回日本人類学会大会シンポジウム「日本列島における後期旧石器時代研究の最前線」、2015 年 10 月)

〔共著〕

1. In Search of Upper Paleolithic Sites in Alluvial Contexts in the Tsukh (Chikoi) River Valley, Northern Mongolia. (SAA 80th Annual Meeting, San Francisco、2015 年 4 月)
2. Obsidian Access and Territoriality at the Upper Paleolithic Shimaki Site, Hokkaido, Japan. (SAA 80th Annual Meeting, San Francisco、2015 年 4 月)
3. Adoption of Ceramic Technology: Case Study from Incipient Jomon of Southern Kyushu (ca. 13,500/14,000-12,000 cal yr BP) . (SAA 80th Annual Meeting, San Francisco、2015 年 4 月)
4. 「岩手県大渡 II 遺跡の後期旧石器時代資料を対象とした石器使用痕分析

- (予報)」(2015年度日本旧石器学会シンポジウム ポスターセッション、2015年6月)
5. 「遠軽町旧白滝3遺跡の自然形成過程」(北海道旧石器文化研究会、2015年6月)
  6. 「置戸町秋田10遺跡における旧石器石器群の行動論的解釈」(北海道旧石器文化研究会、2015年6月)
  7. Last Glacial Maximum Human in Southern Siberia. (“Human Technological and Behavioral Adaptation to the Last Glacial Maximum in Northern Eurasia.” HaB COMM session (H-03) in XIX INQUA Congress, Nagoya. 2015年7月)
  8. Human Land Use in a Last Glacial Maximum Refuge: Insight from the Shimaki Site, Southeastern Hokkaido. (“Human Technological and Behavioral Adaptation to the Last Glacial Maximum in Northern Eurasia.” HaB COMM session (H-03) in XIX INQUA Congress, Nagoya. 2015年7月)
  9. Human Responses to Climate Change and Volcanic Events between the Late Upper Paleolithic to Early Jomon Periods in Southern Kyushu, Japan (ca. 19,000-7,300 cal. BP)). (Poster presented at XIX INQUA Congress, Nagoya. 2015年7月)
  10. 「北海道河東郡上士幌町嶋木遺跡における2015年度(第6次)発掘調査の概要報告」(『第29回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』. 東北日本の旧石器文化を語る会、2015年12月)

#### 【学会活動】

国際第四紀学連合、生物・人類圏コミッション (INQUA HaB COMM)  
副委員長  
国際第四紀学連合第19回大会 (XIX INQUA 2015 Nagoya) 組織委員会委員 (出版委員会委員長)  
アジア旧石器協会 (Asian Palaeolithic Association) 幹事  
日本第四紀学会行事・企画幹事および評議委員  
日本考古学協会国際交流委員会委員  
日本旧石器学会渉外委員長

【講演等】

〔招待講演〕

1. 『シベリアの上部旧石器時代における狩猟採集民の住居址と居住行動』、相模原市旧石器ハテナ館講演会、2015 年 2 月、相模原市
2. 「シベリアの狩猟採集民は約 2 万年前の極寒期をどのように乗り越えたか？」 仙台市地底の森ミュージアム考古学講座、2015 年 11 月、仙台市

〔見学会〕

1. 「上士幌町嶋木遺跡の発掘調査と旧石器時代の人々の暮らし」 上士幌町教育委員会主催、2014 年 9 月、上士幌町

【学外での委員等】

Paleoamerica (Maney Publishing) 編集委員

ロシア・ザバイカル国立大学人文学部紀要 Gumanitarnui Bektor 連携編集委員。

Quaternary International 特集号招待編集委員

岩瀬 彬

【単著】

1. 『日本列島東半部における最終氷期最盛期石器群の石器使用痕研究：石器使用の変異性とその含意』 首都大学東京 博士（考古学）論文、2015 年

【論文】

（単著）

1. 「胴拔原 A 遺跡出土石器の使用痕分析」（『胴拔原 A 遺跡』 津南町文化財調査報告書第 66 輯、2015 年 3 月）
2. 「土器に埋納された磨製石斧の使用痕分析：千葉県松戸市河原塚遺跡を事例に」（『松戸市立博物館紀要』 22、2015 年 3 月）
3. 「日本列島後期旧石器時代における石器使用の変異性：使用痕分析の集成と検討」（『論集忍路子 IV』 2015 年 4 月）

（共著）

1. Further study on the Late Pleistocene megafaunal extinction in the Japanese

Archipelago. (Emergence and diversity of modern human behavior in Paleolithic Asia. 2015 年 1 月)

【学会発表】

(単著)

1. Use-wear analysis on the LGM assemblages in Hokkaido, northern Japan. AWRANA 2015: Connecting people and technologies, 2015 年 5 月
2. Functional Variability in the LGM Assemblages of Hokkaido, Northern Japan. XIX INQUA Congress: "LGM Prehistory in Northern Eurasia" session, 2015 年 7 月
3. 「日本列島における後期更新世後半の大型哺乳動物の絶滅」第 69 回日本人類学会大会シンポジウム「日本列島における後期旧石器時代研究の最前線」、2015 年 10 月

(共著)

1. 「岩手県大渡 II 遺跡の後期旧石器時代資料を対象とした石器使用痕分析 (予報)」2015 年度日本旧石器学会シンポジウム ポスターセッション、2015 年 6 月

【学会活動】

日本第四紀学会 選挙管理委員会

大藪 海

【共著】

1. 『【ここまでわかった】戦国時代の天皇・公家衆たち 天皇制度は存亡の危機だったのか?』洋泉社、2015 年

【論文】

2. 「室町期興福寺別当職の補任一康正 2 年大乘院尋尊任別当をめぐる相論から一」(『慶應義塾大学考古学研究会 50 周年記念誌』、2015 年 11 月)

【その他】

3. 「回顧と展望：中世 南北朝・室町期」(『史学雑誌』第 124 編第 5 号、2015 年 5 月)



## 【学会発表】

4. 「伊勢北畠氏の官位昇進に関する一考察」(室町期研究会第46回例会、2015年12月)

## 【講演等】

1. 早稲田大学オープンカレッジ「人物でたどる戦国史」、早稲田大学エクステンションセンター、2015年1月22,29日、2月5日、4月16日、5月14,28日、6月11日、8月20,27日、9月3日
2. 武蔵野大学生涯学習講座「国宝『上杉家文書』にみる室町時代」、武蔵野大学社会連携センター、2015年1月18日
3. 武蔵野大学生涯学習講座「古文書から読み解く中世」、武蔵野大学社会連携センター、2015年1月17日、8月23,30,9月6,13日
4. 武蔵野大学生涯学習講座「お金の借り方・返し方—室町時代の金融—」、武蔵野大学社会連携センター、2015年9月16日
5. 慶應義塾大学考古学研究会50周年記念式典特別講演「室町期興福寺別当職の補任—康正2年大乘院尋尊任別当をめぐる相論から—」、慶應義塾大学考古学研究会、2015年11月14日

## 鎌倉 佐保

### 【共著】

1. 歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』(東京大学出版会、2015年3月)
2. 歴史学研究会編『歴史学と、出会う—41人の読書経験から—』(青木書店、2015年5月)

### 【論文】

1. 「利田と国衙勸農」(『人文学報(歴史・考古学)』50号、首都大学東京大学院人文科学研究科、2015年3月)

### 【書評】

1. 「悪党研究会編『中世の基層』」(『人民の歴史学』203号、2015年3月)

### 【その他】

1. 「賢問愚問解説コーナー 郡・郷・保について」(『歴史と地理』687号、2015年9月)

## 【学会活動】

歴史学研究会委員 (2015年5月まで)

## 【講演等】

1. 「中世日本の古文書を読む—中世の裁判を読む」(明治大学リバティアカデミー教養・文化講座、2015年9月16日、9月30日)
2. “Twelfth-century Innovations in the Formative Process of the Shoen System” (南カリフォルニア大学 USC Project for Premodern Japan Studies, 2015年11月5日)
3. Workshop “Kagato no Sho (Bizen Province) in the Era of Taira Hegemony” (南カリフォルニア大学 USC Project for Premodern Japan Studies, 2015年11月6日)
4. 「中世・八王子の歴史をさぐる—第1回 多摩郡由木郷を探る」(首都大学東京オープンユニバーシティ、2015年11月9日)
5. 「中世・八王子の歴史をさぐる—第2回 平安・鎌倉時代の武士団と荘園」(首都大学東京オープンユニバーシティ、2015年11月16日)

## 【学外での委員等】

埼玉県歴史と民俗の博物館協議会委員

多摩市文化財保護審議会委員

熊谷市史編さん委員会中世専門部会委員

立川市史編集委員 (古代・中世史部会長)

## 河原 温

### 【共著】

1. 森洋子編『図説ベルギー 美術と歴史の旅』(分担執筆) 河出書房新社、2015年1月(序章、第1章、第2章)。
2. 河原温・堀越宏一『図説 ヨーロッパ中世の暮らし』(共著) 河出書房新社、2015年2月。

### 【論文】

1. (翻訳) M. ボーネ (河原温・藤井美男訳) 「中世ネーデルラント：都市の<世界>か? ヨーロッパのコンテクストにおける都市史」『比較都

市史研究』34 - 1、2015 年 6 月、17 - 34 頁。

【その他】

1. (書評) H.K. シュルツェ『西洋中世史事典』(I-III)、『社会経済史学』81-1、2015 年 5 月、129-131 頁。
2. (新刊紹介) P. Lantschner, *The Logic of Political Conflict in Medieval Cities: Italy and the Southern Low Countries, 1370-1440*, Oxford, Oxford UP, 2015, 『西洋中世研究』第 7 号、2015 年 12 月、184 頁。

【学会発表】

1. 「ブルゴーニュ公国期フランドル都市史研究の動向—ブルッヘを中心に」(科研 [A]) ヨーロッパ中世史研究会例会 (於青山学院大学)、2015 年 12 月。

【学会活動】

西洋中世学会常任委員  
比較都市史研究会幹事  
メトロポリタン史学会編集責任者

【学外での委員等】

審議会等の委員  
大学評価・学位授与機構、文学・神学専門委員会歴史学部委員 2013 年 4 月～  
三菱財団人文科学部門選考委員 (平成 27 年度) 2014 年 9 月～

國 雄行

【論文】

1. 「内務省期の農書編纂と織田完之」(『人文学報』505 号歴史学編第 43 号、2015 年 3 月。

【学外での委員等】

新宿区文化財調査員  
武蔵村山市文化財保護審議会委員

## 谷口 央

### 【共著】

1. (共著) 前近代歴史地震史料研究会編『歴史学による前近代歴史地震史料集』新潟大学人文学部、2015年3月

### 【その他】

1. 「志摩・伊勢両国に見る被害の実態と記載文言の関係―宝永地震を中心に―」(『2015年前近代歴史地震史料研究会講演要旨集』新潟大学、2015年11月)

### 【学会発表】

1. 「志摩・伊勢両国に見る被害の実態と記載文言の関係―宝永地震を中心に―」前近代歴史地震史料研究会、新潟大学、2015年11月

### 【学会活動】

戦国・織豊期研究会代表

### 【講演等】

1. 「関ヶ原合戦に至るまで」(江戸東京博物館、春期えどはくカルチャー『大関ヶ原展』関連講座、2015年5月)
2. 「太閤検地と真田氏の領国支配」(早稲田大学オープンカレッジ「真田丸予習講座・真田氏と戦国時代」、2015年10月)
3. 「上田城攻めと関ヶ原の戦い」(早稲田大学オープンカレッジ「真田丸予習講座・真田氏と戦国時代」、2015年11月)

### 【学外での委員等】

三重県史近世部会専門調査員、三重県

愛知県史中世2・織豊部会調査執筆委員、愛知県

東京大学史料編纂所共同研究員、東京大学史料編纂所

## 中嶋 毅

### 【共著】

1. 『女たちの満洲―多民族空間を生きて』(生田美智子編、大阪大学出版会、2015年4月)

## 【論文】

1. 'Forming the Russian Fascist Party in Harbin 1925-1933' (『人文学報』 505 歴史学編 40、首都大学東京都市教養学部人文・社会系、2015 年 3 月)
2. 「ロシア・ファシスト党とハルビンの反ユダヤ主義 1931 - 1937」(『ユダヤ・イスラエル研究』 29、日本ユダヤ学会、2015 年 12 月)

## 【学会発表】

1. Russian Fascist Movement and Anti-Semitism in Harbin, 1931-1937, IX World Congress of The International Council for Central and East European Studies, 4 August 2015, 神田外語大学

## 【学会活動】

ロシア史研究会会誌『ロシア史研究』編集長

## 【その他】

NHK 高校講座世界史監修講師

## 福士 由紀

### 【論文】

1. 「中国における予防接種の歴史的展開：種痘政策を中心に」(『海外社会保障研究』 192 号、2015 年 9 月)

### 【学会発表】

1. 「中国における「健康」と「衛生」」NIHU (人間文化研究機構) 基幹研究・予備研究「エコヘルス研究会：「健康」の歴史性：「健康」・「衛生」概念の歴史的変遷」総合地球環境学研究所、2015 年 1 月。
2. 「近現代中国における感染症の歴史研究」2015 年度海外学術調査フォーラム・地域分科会 (東アジア)、東京外国語大学、2015 年 6 月
3. Shistosomiasis Control in China 1950s-70s. The 3rd Conference of East Asian Environmental History, Kagawa University, 2015 年 10 月.

### 【学会活動】

メトロポリタン史学会委員

## 前沢 伸行

### 【学会発表】

1. 「古代ギリシャ史と複雑系」 古代史研究会、2015年9月

### 【学会活動】

史学会評議員

## 前田 弘毅

### 【論文】

1. “New Information on the History of the Caucasus in the Third Volume of Afzal al-tavarikh” , *Studies on Iran and The Caucasus: In Honour of Garnik Asatrian*, Eds: Uwe Bläsing, Victoria Arakelova and Matthias Weinreich, Leiden: Brill, 2015.
2. 「グルジア」(松本弘編者『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック 2014』人間文化研究機構地域研究推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2015年3月)

### 【その他】

1. 「一七・一八世紀中東における「奴隸」の諸相：境界人としての「奴隸」エリート」(『歴史と地理』(684)、山川出版社)
2. 日本ビジネスプレス (JBpress) への寄稿 (2015年1月、3月、5月、7月、10月)

### 【学会発表】

1. “Georgian Kingdoms under the Hegemony of Safavid Iran in late 17th Century: An Inquiry into the Multiple Identities and Multi-layered Politics among Empires and Their Subjects,” *International Conference The Middle East and Caucasus: History, Culture, Politics*, Ilia State University, Tbilisi, Georgia, December, 2014.
2. “Girogi Saakadze’s Revolt in 1625 and an Iranian Bureaucrat’s Perception,” *The First International Kartvelological Congress*, Georgian Academy of Sciences, Tbilisi, Georgia, November, 2015.

【学会活動】

ユーラシア研究編集委員  
ロシア東欧研究編集委員  
メトロポリタン史学会委員

【講演等】

1. 首都大学東京オープンユニバーシティ講座『ユーラシア・悠久の歴史・激動の世界』、2015年10月

源川 真希

【共著】

1. 中野隆生編『二十世紀の都市と住宅』山川出版社、2015年

【論文】

1. 「都市・自治体政治における『戦後体制』とその変容 - 都市再開発の政治史的研究・序説 -」(『年報日本現代史』20、現代史料出版、2015年)

【その他】

1. 「書評 佐藤健太郎著『「平等」理念と政治』吉田書店、2015年」(『図書新聞』3193、2015年2月7日)
2. 吉田裕・森武麿・伊香俊哉・高岡裕之編『アジア・太平洋戦争辞典』、吉川弘文館、2015年

【学会発表】

コメント 2015年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会 パネル・ディスカッション「現代都市の形成とガバナンス - 英・独・日の比較史 -」  
福島大学、2015年10月18日

【学会活動】

同時代史学会理事

【講演等】

1. 「東京 - 歴史学・社会科学の研究対象としての -」(Tôkyô als Gegenstand von Geschichts- und Sozialwissenschaften in Japan) ハンブルク大学 アジア・アフリカ研究所日本学教室(日本語による講演)、2015年4月21日

2. 「都市政治の『公共性』とその歴史的変容 - 東京・大阪ならびに諸外国の都市の事例から -」 ワーク・ショップ「公共性とその限界：制度と歴史の観点から」 青山学院大学経済学部、2015 年 12 月 1 日

【学外での委員等】

八王子市史編さん委員会近現代部会委員 他

山田 昌久

【編著】

1. 『首都大学東京傾斜的研究費「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ（代表：山田昌久）平成 26 年度活動報告書』 学術成果の都民への発信拠点・組織の形成研究グループ 84 頁 2015 年 3 月
2. 『人類誌集報 2015-4 - 遺跡誌情報・民俗誌情報・実験誌情報による人類誌』 首都大学東京考古学報告 14 人類誌調査グループ 104 頁 2015 年 4 月

【共著】

1. 「寺地遺跡と縄文時代の木の文化」『越後国域確定 1300 年記念事業記録集』 新潟県教育委員会 63-76 頁 2015 年 3 月
2. 「実験考古学フィールドの設置と連携関係の構築 - 考古学知の再検討に係る研究実践」『人類誌集報 2015 - 4』 首都大学東京考古学報告 14 人類誌調査グループ 1 - 6 頁 2015 年 4 月
3. 「集成加工技術に関する技術認識と用語体系の再検討 - 編み組み技術による籠製作と使用に関する実験報告展開の意義」『人類誌集報 2015 - 4』 首都大学東京考古学報告 14 人類誌調査グループ 24 - 28 頁 2015 年 4 月
4. 「弥生人の四季」『石野博信討論集 倭国乱とは何か - クニへの胎動 -』 新泉社 228 - 309 頁 2015 年 6 月

【学会発表等】

1. 「長野県南佐久郡小海町天狗岩岩陰遺跡の環境考古学調査」『日本考古学協会第 81 回（2015 年度総会）』 2015 年 5 月
2. 「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成研究グループ（平成 24 ～



26年度)の成果」 首都大学東京学長裁量枠傾斜的研究費成果発表会

2015年10月

【競争的資金獲得による活動】

1. 首都大学東京学長裁量枠 新領域形成「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」(生命科学・地理学・歴史学・社会人類学・美術学・大学教育センター教員との共同研究)代表:山田昌久 ～3月
2. 首都大学東京学長裁量枠 ミニ研究環「MRIを活用した考古学研究」(放射線学科・大学教育センター教員との共同研究)代表:山田昌久 9月～
3. 科学研究費補助金 基盤研究B「岩陰遺跡の環境考古学的調査」代表:本郷一美(総合研究大学院大学)
4. 東京都高度研究「アジア地域の風土と社会に根ざした持続可能都市の構築技術」(建築学教員との共同研究)代表:吉川徹(首都大学東京)

【学会活動】

日本考古学協会査読委員、古代学協会会員、日本文化財科学会会員、日本生態学会会員、日本植生史学会会員、日本民具学会会員、メトロポリタン史学会副会長

【学外での委員・共同研究等】

1. 国史跡整備委員会委員:岩手県御所野遺跡、千葉県井野長割遺跡、東京都下布田遺跡、石川県真脇遺跡、佐賀県東名遺跡、大分市横尾貝塚
2. 博物館展示委員・運営評議員:金沢市縄文館、若狭町縄文博物館、大豊町民俗資料館
3. 共同研究:地球環境学研究所F Rプロジェクト高分解能気候学と歴史学・考古学の連携による気候変動に強い社会の探索、鳥取県妻木晩田史跡公園園弥生の森再生事業
4. 遺跡調査指導:福岡県比恵遺跡、愛知県朝日貝塚、石川県真脇遺跡

【招待講演】

1. 「縄文時代のムラ作りと環状盛土遺構」 佐倉市教育委員会 井野長割遺跡史跡指定10周年記念シンポジウム 2015年1月
2. 「弥生時代の集落森林の復元」 鳥取県妻木晩田史跡公園環境考古学講座 2015年3月

3. 「縄文時代の環境と生活技術について」 港区郷土資料館 考古学講座  
2015年3月
4. 「朝日貝塚の木製品」 愛知県貝殻山資料館 朝日貝塚出土品重要文化財  
指定10周年記念講演 2015年9月
5. 「チカモリ遺跡と中屋サワ遺跡」 金沢市縄文館 金沢市縄文館開館記念  
講演 2015年10月

【新聞社会欄・コメント等】

1. 「真脇遺跡出土柄付柱出土の意義」 読売新聞 2015年1月
2. 「長野県天狗岩岩陰遺跡の出土遺物の価値」 中日新聞 2015年9月